

小長谷 悠紀 KONAGAYA, Yuki

教授

PROFILE

生年 1974

研究者略歴

- 所属 文化学部 文化学科
- 学位 観光学修士 立教大学 2000年
博士(観光学) 立教大学 2006年
- 学歴・職歴 立教大学文学部史学科卒業(1989年3月)
立教大学大学院観光学研究科観光学専攻博士課程前期課程修了(2000年3月)
立教大学大学院観光学研究科博士課程後期課程単位取得退学(2003年9月)
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市持続再生学コース(2014年10月より在学中)
- 専門分野 観光文化研究、観光地計画論、観光まちづくり
- 所属学会 日本観光研究学会、総合観光学会、日本ホスピタリティ教育学会、都市計画学会
- 講義科目
【学部】 観光学総論、観光まちづくり論、観光産業論など

研究SEEDS

■ 研究テーマ

・観光地形成過程 ・異人歓待的あるいは他者寛容性のある風土・都市空間のでき方や条件 ・地ぐらいを高める都市空間づくり

■ 研究概要

交流の促進や多文化社会へのソフトランディングを視野に、観光や交流にかかわる人々のものの見方や変容を研究していて、特に、まちの風土としての他者寛容性、多様性への開放性、「うちのまちは、下町風」などといった我がまち観や土地土地で異なる「あたりまえの感覚」(自明性)がどのようにしてつくられていくのかを考えています。もうひとつの関心分野は、歩いて楽しいまちづくりで、広場や公園、街路などのパブリックな空間のつくりかた、修景、ロード・ダイエツトなどに興味があります。

■ 相談可能な領域

・地域の歴史文化や文化資源に関する調査研究および活用について
・地域社会における教育実践としてのフィールドワークの実施について

■ キーワード

観光文化、観光まちづくり、交流人口、観光都市論、歩いて楽しいまち、ホスピタリティ・デザイン、都市美、街並み村並み、観光地計画、公営競技、ニューツーリズム、スペシャルインタレストツーリズム

DATA

主な功績

●主要研究業績等

- ①著書(共著)
 - ・白土健・望月義人編著『観光を学ぶ』123p(2015)「1部2 旅と観光の歴史」pp.12~23. 八千代出版, 東京
 - ・神田孝治編著『レジャーの空間-諸相とアプローチ-』270p(2009)「サーフィン文化の形成と空間というメディア」pp.59-67, ナカニシヤ出版, 京都
- ②論文
 - ・小長谷悠紀: 巣鴨の「下町っぽさ」への一考察—まちの見方と風土についての研究—日本観光研究学会全国大会発表論文集No.30.(2014)
 - ・小長谷悠紀: 近世巣鴨にみる「空間の種類」の結合—まちの見方と風土についての研究—日本観光研究学会全国大会発表論文集No.28. pp.201~204 (2013)
- ③報告書等
 - ・小長谷悠紀: 復活盛岡文士劇—地域魅力創造の場における社会関係の形成と気分の醸成、道又力『もりおか暮らし物語読本 演劇のまち盛岡』もりおか暮らし物語読本『演劇のまち盛岡』刊行委員会所収, pp.300~317
 - ・小長谷悠紀: 遊園地の系譜としてみる江戸の植木屋文化と御成り, 総合観光学会 第24回全国学術研究大会「発表要旨」所収, pp.45~48

受賞歴など

- ・感謝状、国立台北護理学院「国際長宿休閒管理検討会」国際ロングステイシンポジウムパネラーと集中講義について(2007)
- ・(財)アジア太平洋観光交流センター「第6回観光に関する学術研究論文」一席:「競走馬産地への旅の変遷にみるツーリズム発展の背景」(2000)

主な社会貢献など

- 2016年5月~現在 高知県COC+観光人材育成事業検討会参加
- 2012年7月~現在 埼玉県「川の国埼玉 川の再生懇談会」委員①~13年3月、②14年7月~現在
- 2010年7月~11年3月 埼玉県「ぐるっと埼玉サイクルネットワーク構想」アドバイザー会議委員
- 2008年7月~10年3月 国土交通省 信濃川水系河川整備計画学識者会議上流部会委員
- 2008年7月~10年3月 長野県上小地域観光戦略会議委員(担当外国人旅行者誘客促進分科会)
- 2007年4月~10年3月 長野県「元気づくり支援金」平成19・20・21年度選定委員
- 2006年10月~08年3月 長野県上田市総合計画審議会産業経済部会委員
- 2005年11月 長野県「人権啓発講座・公正採用選考人啓発推進員研修会」講師「外国籍県民との共生に向けて」
- 2003年7月 立教大学観光研究所「観光地を革新する「観光地経営専門家」育成プログラムコンソーシアム運営委員など

中高生・県民・地域住民向け講義

- ・「観光のひろがり観光学」
- ・「身分け言分けで考える観光資源」
- ・「観光振興の目的はなんですか—理念とあこがれから始めよう、観光まちづくり」